



平成31年4月から、佐渡ステーションは「佐渡自然共生科学センター 演習林」と名称が変更となり、全学の施設となります。

フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション 提供

# 松 涛

No.36

2019. 3. 10

## 主な記事

同窓会長挨拶	2
学部長挨拶	2
今年度の活動計画	3
同窓会会計報告	4
農学部を去るにあたって	5
支部だより	6
職場紹介	9
吉乃川株式会社・中越酵母工業株式会社	9
特集 新潟大学 地域連携	10
フードサイエンスセンターのご紹介	11
ペンリレー 同窓生からのたより	14
農学部フォーラム・国際交流	15
学部だより	16
トピックス・農学部の動向	19

# 同窓会長挨拶

同窓会長 渡辺 仁



昨年の世相を表す漢字は「災」でした。豪雪に始まり、地震、豪雨、猛暑、干ばつ止めは台風と文字通り災害の多い年でした。

また、世界情勢を見ると米国の一強支配に対抗する中国の台頭や欧州各国の政情不安が伝わる中、平成最後の年を迎えることとなりました。

まさに、時代が大きく変わる年になるのではと感じさせる年の初めです。新潟大学では、厳しい運営状況にある中、「地（知）の拠点大学」としての役割を担うべく様々な取り組みをしています。経済的理由で進学が困難な高校生への入学応援奨学金や在校生への独自の奨学金制度の創設による優秀な学生の確保・育成や学外学修・インターシップの充実、更には地域の改革に大学としても寄与していくことを目的とした企業・自治体等との連携協定締結や見学交流ツアーなども開催しています。

昨年4月には、世界初の「日本酒学センター」を設立し、全学の学生を対象とした「日本酒学」講座は①日本酒造り②酒税③健康と日本酒④日本酒に関する経済⑤文化歴史など多岐にわたる内容を学ぶそうです。当初定員200名を予定していましたが、聴講希望者が800名を超えたため、急遽300名に聴講を許可したとのこと。因みに脱落者はほとんどいないそうです。

す。

また、農学部では「生命・食料・環境の未来を支える農学部へ」を合い言葉に、1学科体制（5つの主専攻プログラム）で「NIIIGATA人材の育成と定着」に向けた教育プログラムを展開しています。その結果、県内就職率も上向いてきているとのことでした。

全学同窓会では、大学との懇談会、各学部同窓会の相互交流促進に向けた記念講演会・交流会の開催や学友会サークル等へ支援としての雪華支援事業、「新潟大学カード」の利用促進など、大学への支援や同窓会活動の活性化に向けた取り組みも強化しているところ

です。農学部同窓会も、毎年開催している常任幹事会場の場を利用して、大学や各県支部の代表者との情報交換に努めるとともに、招請頂いた各県支部の総会等に参加させて頂き、大学の近況を報告するなど交流を深めています。昨年は、長野県と首都圏にお邪魔しました。特に、首都圏同窓会では、農学部が当番とのこと。H元年農芸化学科卒の朝日酒造経営企画部長 新野義弘さんが『新潟の酒造りと「久保田」の開発』と題して講演と試飲を行い大好評でした。

また、一昨年から始めた嵐丘庭の草刈り作業にも県庁農地部、農林水産部から15名に参加して頂き、学生、教員合わせて約30名で、台風の影響を心配しながらも無事にケガ無く心地良い汗をかき、美味しいお酒を飲みながら交流することができました。

今後とも、こうした教員、学生との交流促進や社会で活躍されている卒業生の講演会等を企画するなど、同窓会活動を盛り上げて行きたいと思っております。

# 学部長挨拶

農学部長 末吉 邦



はじめに、農学部同窓会会員の皆さまには、平素より農学部にかいご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。同窓会からは本年度も国際交流活動、志願者確保のための広報活動、図書室の充実、卒業祝賀会などの諸行事に多大なご支援をいただきました。農学部教職員を代表して心より御礼申し上げます。

一年を振り返り、農学部の状況を簡単に説明させていただきます。前号でご報告したとおり、農学部は昨年4月に1学科5主専攻プログラムという新たな体制でスタートしました。新しい体制では、学生は入学後、1年半はプログラムに所属せず、全学共通科目と農学部共通基礎科目を通じて、幅広い教養と農学各分野の基礎知識を学び、2年次後半に各プログラムに所属し、それぞれにおいて専門知識と技術を深く習得します。学生は、共通基礎科目で学ぶ内容や教員によるプログラム紹介などを参考に、自分が所属するプログラムを決めていくのですが、中には入学当初に考えていた分野と異なる分野を選択する者もいます。昨年10月には、新体制で入学した

引き続き会員各位のご理解とご支援を、何卒宜しくお願い申し上げます。最後に、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

最初の学生のプログラム分属が行われ、約80%の学生が第一希望のプログラムに分属するという結果になりました（第2希望のプログラムに分属した学生の割合は15%）。希望通りのプログラムに所属できないと学習意欲が低下することが危惧されますが、その様な心配は今のところ無いようです。しかし、新しい農学部で教育を受けた学生がしっかりと力をつけて卒業していくのか、きちんと検証する必要があります。

さて、新潟大学では、財政上の事情から2年間人事が凍結していましたが、制度の大幅な変更に伴い、ようやく人事を進められるようになりました。農学部では、この1年で、6名の准教授が教授に、3名の助教が准教授に昇任しました。また、1名の教授、4名の助教（うち2名は一年任期の外国人助教）を新たに採用することができ、今現在2名の助教を募集中です。このように、農学部の教員構成も大きく変わりつつあり、今後の研究の広がりも期待されます。農学部の実践的教育の一翼を担ってきた附属フィールド科学教育研究センターの佐渡ステーション（演習林）は、同じく佐渡にある研究推進機構朱鷺・自然再生学研究センターおよび理学部附属臨海実験所と統合され、本年4月



## 2017年度新潟大学農学部同窓会 事業費決算報告 (平成29年5月1日～平成30年4月30日)

### 1. 収入の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	4,000,000	4,000,000	0	
前年度繰越	993,763	993,763	0	
利子・雑収入	39	24	▲ 15	利息 24円
合 計	4,993,802	4,993,787	▲ 15	

### 2. 支出の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 事務局費	600,000	585,442	▲ 14,558	全学同窓会役員会・支部総会出張旅費・通信・電話料・謝礼・消耗品費等
2. 会議費	460,000	416,878	▲ 43,122	常任幹事会支部役員出席旅費 常任幹事会会場使用料等
3. 名簿情報維持管理費	60,000	54,000	▲ 6,000	名簿データメンテナンス
4. 卒業祝賀会費	700,000	700,000	0	
5. 退職者記念品費	30,000	28,944	▲ 1,056	退職者(教員2名)
6. 嵐丘庭維持費	100,000	76,414	▲ 23,586	中庭下刈り2回(同窓生・在学生・教職員との交流)
7. 「松涛」発行費	1,300,000	1,263,431	▲ 36,569	「松涛35号」「しおり」印刷、郵送等
8. 慶弔費	50,000	0	▲ 50,000	弔電、生花等
9. 支部活動助成費	350,000	350,000	0	8支部(6支部35,000円、新潟県・首都圏支部各70,000円)
10. 学文活動助成費	250,000	80,081	▲ 169,919	3大学合同研修会、FCシンポ、新大GP(世界展開強化事業)、農学部フォーラム(KAAB)事業等
11. 全学同窓会負担金費	403,000	432,038	29038	平成29年度入学定員による比率(%)8.0386
12. ホームページ費	50,000	9,000	▲ 41,000	松涛35号、記事等掲載
13. 志願者確保対策助成費(高校訪問旅費助成費)	270,000	224,646	▲ 45,354	教員による高校訪問、出前授業、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実費	100,000	99,738	▲ 262	農学部学生による希望図書の購入補助
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	31,317	▲ 18,683	農学部学生の就業力育成のため、農学部卒業生による指導、助言の旅費等
16. 予備費	220,802	0	▲ 220,802	
合 計	4,993,802	4,351,929	▲ 641,873	

3. 差引残高(A-B) 641,858円 次年度への繰越金

## 2018年度新潟大学農学部同窓会 事業会計予算 (平成30年5月1日～平成31年4月30日)

### 1. 収入の部 (円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	4,300,000	4,000,000	300,000	
前年度繰越	641,858	993,763	▲ 351,905	
利子・雑収入	24	24	0	
合 計	4,941,882	4,993,787	▲ 51,905	

### 2. 支出の部 (円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
1. 事務局費	620,000	585,442	34,558	全学同窓会交流会出席補助、役員会・通信・電話料・各支部への出張旅費・謝金・PCウイルスソフト等
2. 会議費	460,000	416,878	43,122	常任幹事会開催経費等
3. 名簿情報維持管理費	60,000	54,000	6,000	名簿情報メンテナンス等経費
4. 卒業祝賀会費	700,000	700,000	0	卒業祝賀会費補助
5. 退職者記念品費	15,000	28,944	▲ 13,944	退職者1名
6. 嵐丘庭維持費	100,000	76,414	23,586	
7. 「松涛」発行費	1,300,000	1,263,431	36,569	「松涛」「しおり」印刷、発送等
8. 慶弔費	50,000	0	50,000	弔電、生花代等
9. 支部活動助成費	350,000	350,000	0	支部活動助成(6支部@35,000 首都圏、新潟県@70,000)
10. 学文活動助成費	250,000	80,081	169,919	3大学合同研修会、FCシンポ、新大GP、農学部フォーラム等
11. 全学同窓会負担金費	435,038	432,038	3,000	分担金
12. ホームページ費	50,000	9,000	41,000	HPメンテナンス等経費
13. 志願者確保対策助成費(出前講義旅費助成費)	270,000	224,646	45,354	高校訪問、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実助成費	100,000	99,738	262	農学部学生用図書及び閲覧スペースの充実
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	31,317	18,683	農学部学生の就業力育成のため農学部卒業生による指導・助言
16. 予備費	131,844	0	131,844	
合 計	4,941,882	4,351,929	589,953	

## 2017年度新潟大学農学部同窓会 基金会計報告 (平成29年5月1日～平成30年4月30日)

### 1. 収入の部 (円)

科 目	前年度	今年度	増 減
繰越金	25,521,904	25,589,809	67,905
基金収入(入会金)	4,691,340	4,811,120	119,780
利子	2,778	3,030	252
合 計	30,216,022	30,403,959	187,937

### 2. 支出の部 (円)

科 目	金 額	備 考
事業費繰入	4,000,000	
合 計	4,000,000	

### 3. 次年度への繰越金 (円)

科 目	金 額
収入合計	30,403,959
支出合計	4,000,000
繰 越 金	26,403,959



# 農学部を去るにあたって

農学部での33年間  
ありがとうございました

中野 和 弘  
(生産環境科学科)



酒井学教授、倉田和彦助教にお声かけをいただき、

新潟大学農学部農業工学科の助手として赴任したのは、33年前の昭和61年4月でした。宿舎は西大畑宿舎に決まり、つなぎ姿の酒井先生が研究室の学生を引き連れて、引越しの陣頭指揮をして下さいました。宿舎には同じ幼稚園の子ども達が大勢住んでいて、各家庭を行ったり来たり、夕飯をこちそうになって帰ってくることもありました。西大畑宿舎は、古町や本町、三越などへも近く、こんな繁華街の近くに住めるなんて幸せだなあ、と感激しました。(今の古町の通量がこんなに寂しくなるとは、思いませんでした。)

着任した研究室は「農業システム工学研究室」の看板を掲げ、日本で初めての名称だ、これからは農業機

械や土木の敷居をなくして、農業の自動化、無人化、システム化に進むのです、と酒井先生は自慢気でした。

当時の酒井先生や倉田先生はオランダのワージェンゲン農業大学との交流があり、今でいうインターンシップ学生(当時は、海外の大学で3〜6ヶ月の研究生生活をして単位をもらえる)を毎年のように受け入れていました。そのような背景で、自然と私もワージェンゲン農業大学との交流を進めました。後年、文部省在外研究員の機会を得て同大学で10ヶ月の研究生活を送ることができ、これが私の国際化の萌芽期となりました。

研究は、「助手のうちは国際的・先進的研究を学び、助教教授になったら学会の中堅幹部となり、教授になったら途上国の学生の育成と学部の運営に貢献する」というのが、お二人の信条でした。農業の情報化を目指すというところで、農学部で初めて外付けハードディスク(10メガバイトで、なんと10万円)を購入して、データベースやシミュレーションの研究をしました。その頃、創設された農業情報利用研究会が牽引役となり、全国の農家に情報化の波が駆けめぐ

るのを目の当たりにしました。また、パソコンの100倍の処理スピードが出せるというワークステーションを購入し、AIや画像処理システムによる自動走行農用車両の開発を始めました。その後は農水省から大塚雍雄教授も加わり、農業施設のフアイ制御、水田の水管理自動化システム、近赤外分光分析やAIによる農産物品質の非破壊評価、バイオマス産業のシステム化など、農業システム工学研究の一端を担うことができました。博士課程への進学者は、中国5名、タイ7名、日本8名となり、先代教授陣が目指した農業の国際化への貢献も少しは果たせたかなと思っております。

このような長期間にわたって関心のある研究を続けることができたのは、農学部事務職員の方々の支援や同僚教員の理解はもちろんのこと、研究室の学生が月例検討会で本当に夜遅くまでディスカッションに付き合ってくれた賜物と感謝しております。

これから少子化の波が襲って来ますでしょうし、国公立大学との受験生の奪い合いも熾烈を極めるものと思われませんが、農学部や同窓会の皆様の活躍により新潟大学農学部の真価を発揮し、ますます発展されることを祈念しております。ありがとうございました。

嵐丘庭の草刈りを通し、  
同窓生、学生、教員間の絆を  
確認しました

オーブンキャンパスを前にした7月29日(日) 13:30、猛暑の中関係者30名で、農学部の顔である「嵐丘庭」の草刈りを行いました。熱中症に気をつけながら草刈機を動員し屋外での限界である1時間30分を費やし、効率的に作業を進めました。当日は末吉農学部長、渡辺同窓会長、大嶋新潟県支部長を始め、竹友会(新潟県庁農地部の農学部出身者の会)の皆さん、在学生、教員(同窓生)から、大量の汗を流していた

引き続き冷房の効いた部屋での情報交換を行い、汗が引いた頃合いを見計らって散会しました。：皆さん、ありがとうございました。

同窓会事務局



# 支部だより

## ◆北海道支部

北海道では九月に胆振東部地震が発生し、それに伴う大規模停電が発生しました。産業や日常生活が電気に大きく依存していることを改めて思い知らされました。

さて、本年度第二十二回目を迎える北海道同窓会の総会は、十月十三日(土)に、空知管内長沼町にある「ながめま温泉」にて開催となりました。

開催案内は毎回八十通ほど出していますが、当日、他の用務がある方も多く、総会出席者は六名でした。出席できない方からもハガキやメールなどで近況報告があり、総会で紹介しています。ご厚志も頂きました。総会では、明田川会長(昭和四十五年農工)の挨拶の後、事業・会計報告・計画について協議し、それぞれ承認されました。役員改選では、



新会長に五十嵐副会長(昭和五十一農学)が選任されました。総会に続く懇親会では、成田顧問(昭和四

十一農化)による乾杯の挨拶のあと、会員の海外農業指導体験についての報告

や近況報告等を行い、二時間余り語り合いました。その後、一次会では、新潟の銘酒を飲み比べ、夜十時過ぎまで盛り上がりました。翌日も朝早くから温泉や朝食で相互交流を深めました。会員の皆様、どうぞお気軽に、同窓会にご出席の程、宜しくお願い致します。

佐藤 誠一(昭60農化)

## ◆秋田県支部

平成30年8月21日 平成最後、そして記念すべき第100回の夏の甲子園決勝戦に、本県代表の金足農業高校が本県代表としては103年ぶりに進みました。県民に、そして農業関係者に大きな喜びと力を与えてくれた彼らに感謝を伝えたい限りです。

この出来事を知ることもない6月30日(土)に秋田キャッスルホテルにおいて総会を開催しました。総会では、小島会長(昭和52年農工)の挨拶の後、経過・会計報告、30年度事業・予算案について協議し承認されました。

また、12月1日に秋田市内で忘年会を開催しました。例年であれば、出席者の仕事やプライベートの楽しいエピソードで大変盛り上がる近況報告ですが、今年は一と味違いでした。どうしても、あの夏の出来事に

はなが咲きまです。これまで後ろ向きになりがちであった私たちは、たくさんの笑顔と、大きな夢を持たせてもらった平成最後の忘年会となりました。

工藤 英明(平7農生)

## ◆福島県支部

福島第一原発事故発生から7年が過ぎ、震災復興に向けて、廃炉作業40年の道程は、今年も不透明のままです。

2018年5月26日、「アートホテル新潟駅前」で、常任幹事会が開催されました。

渡辺仁同窓会会長から、特に、嵐丘庭の維持、管理をとおして同窓生、在校生、先生方の交流を深めたこと。今後も、更に交流の輪を深めていくとの挨拶がありました。

来賓挨拶として、農学部長・末吉邦先生から、農学部の改組の内容、ポイント制の人事による農学部の大いなる人事昇格があったこと。1学科制によるコース選択制には、人気講座があり、成績順で選択されるといふ。そして、新たに「日本酒学」講座の開設など、文化や伝統の新潟大学における農学部の進化の過程へ



の講演がありました。続いて、幹事長・箕口秀夫先生から、「2017年度活動報告」が9項目にわたって報告され、会計幹事・森口喜成先生から、「事業決算報告等」があり、承認されました。併せて、「2018年度活動計画」「事業予算」の提出があり、何れも原案通り承認されました。

そして、懇親会での「支部活動報告」では、今回、司会・進行をされておられました、佐野義孝先生の福島県支部にお招きしました様子を話題にすることにしました。

佐野先生の教え子、女子2名、第62回円谷祐未さん、第68回佐久間悠さんの方が福島県同窓会総会に華を添えて戴きましたこと。佐野先生のお席には、多くの教え子たちが、「学生時代の思い出話」をみやげに、大いに盛り上がりを見せていたこと。今後も、益々、活動の輪が広がることを期待しているところだと、結びました。

その宴も終わりに、佐野義孝先生の音頭で、「農学部学生歌」の全員合唱の段になり、突然、事務局の事後輝雄先生の指名で、「農学部学生歌」を、オカリナに伴奏で先導をするこ

とになりました。今は昔、ほとんどこ歌っていない歌唱の世界、夢中のひと時でした。「共に謳はむわかき日を：」

そして、その昔、『新潟大学学生歌』



に想いを馳せました。

昭和30年6月8日、新潟市公会堂で、新潟大学教育学部合唱団の中に、一人混じって、「新潟大学学生歌」の初演に参加した当時の出来事が蘇ってきました。

高久 英昭（昭32農）

## ◆首都圏支部

6月9日（土）ラウンジ日比谷において、第32回総会を開催しました。末吉農学部長をお招きして37名が出席。金子晃前同窓会長と酒井仙吉先生（東大名誉教授）が逝去されたので全員で黙祷。総会議事では、平成29年度活動報告、会計報告・監査報告・役員人事で、金井誠さん（林S51年卒）、君島悦夫さん（農S55年卒）、長谷川友亮さん（生環H24年



卒）、榎本夏実さん（生環H26年卒）4人の幹事就任を承認して頂きました。秋田県立大学名誉教授の岩野君夫さん（農化S42卒）から「日本酒の美味しさを探る」という演題で講演をして頂きました。清酒醸造の基本的な造り方、美味しさに関わる化学成分、美味しさと酒米・酵母・麹菌との関係等々約50年間に亘る研究成果をお聞きました。今回は初参加も多く、平成20年代卒の参加者も多く賑やかな懇親会でした。

7年ぶりに農学部同窓会が幹事学部となつて、第47回新潟大学首都圏同窓会総会を11月18日（日）アルカディア市ヶ谷で開催し、高橋学長・末吉農学部長・渡辺農学部同窓会長を来賓としてお招きし、90名（農学部31名）の参加者が集まり盛会でした。朝日酒造（株）取締役経営企画部長の新野義弘さん（農・H元年卒）から「朝日酒造 品質本位の酒造り」新潟の酒造りと「久保田」の開発「久保田」という演題で講演をして頂きました。朝日酒造の歴史、新潟清酒の歩みと「久保田」開発の経緯、新潟県醸造試験場との関わり、日本酒の製造工程、酒米が大切等々有益な話を聴き、後半「ミニ利き酒セミナー」と題して、「久保田」（千寿と純米大吟醸）の利き酒を行い、その違いを体験して頂きました。純米大吟醸のフルーティな香りが印象的でした。懇親会では、「久保田」2種のに、萬寿・豊盃・真澄・赤城山などの吟醸・大吟醸酒を用意して楽しんでもらいました。舞さくらさんの歌、初参加者の話、次回幹事学部の歯学部代表の挨拶、四季の新潟合唱

の後、農学部最高齢の若桑道男さん（農・S35年卒）の手締めで会を終了。

佐藤 純一（昭47農化）

## ◆新潟県支部

新潟県支部長の大嶋（S58・第31回卒）です。新潟県支部では、平成30年1月27日に第7回の新潟県支部総会を開催し、折からの悪天候（毎年のことですが）にも拘わらず48名の支部会員から参加をいただきました。総会では最初に渡辺同窓会長と末吉農学部長から来賓ご挨拶を頂戴し、支部役員の改選を含む議事を承認いただいた後、幹事長（当時）の箕口先生から恒例の映像を交えた農学部の近況をご報告いただきました。続く懇親会では、年長者を代表して小林一三さん（S33・第6回卒）の乾杯ご発声で開宴となり、賑やかな懇談の後、全員で農学部学生歌を熱唱し、出席者最年少の鈴木一輝さん（H24・第60回卒）の中締で盛会のうち散会となりました。ご出席いただいた皆様には本紙面をお借りし心より御礼申し上げます。なお、新潟県支部会総会は毎年1月の最終土曜日に開催しております。引き続き多くの会員の皆様の出席をお願いいたします。



7月29日に同窓生による学部支援活動の一環である「風丘庭」の草取り活動に、新潟県支部か

ら選抜された15名（希望者多数のため調整させていただきました）が参加し、大変な猛暑の中、農学部の先



生方や学生の皆さん、同窓会事務局の皆さんと共に、大量の汗をかきながら大量の草退治を行いました。終了後には同窓会事務局から懇親会を開催していただき、参加者全員で水分会（アルコール）補給を行いつつ楽しくお互いの労をねぎらったところでした。また、10月20日（土）に開催された全学同窓会講演会・交流会では新潟県支部から13名の参加をいただき、全学部の同窓生が集うなか農学部同窓会で1テーブルを占めることができました。このようなイベントへの参加は大学のお膝元である新潟県支部ならではの取組であり、引き続きこれらが新潟県支部の活動として定着するよう、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

大嶋 良夫（昭58農工）

## ◆長野県支部

11月24日、本部会長の渡辺仁様をお迎えして定期総会が開催され、白銀の北アルプスを望む松本駅前ホテルニューステーションに12名が集いました。

総会終了後は2名の講師による講演会がありました。

最初の講演では、「農学部と同窓会の現状について」渡辺仁本部長よりお話していただきました。

新潟大学も含めて、日本の各地方大学は文科省の予算削減により非常に苦勞をしている。また、入学時同窓会費不払いの学生も最近は出現して来た。

明るい話題としては、「日本酒学」なる講座が人気で、満席状態である。

時代の流れと共に、大学も変化してきていますが、学生にとってより良い大学を目指していつてほしいと思います。

次の講演では長野県林業総合センター増野和彦氏に「中日韓きのこサミット(中國慶元)に参加して」と題して、中国の生産地の状況をスライドで詳しく紹介していただきました。

スライドを見る限り、中国のきのこ栽培(椎茸)歴史は世界一古いのが、雑菌の繁殖した椎茸樽木が見られる等、未だ発展の余地は十分に有りそうです。しかし、技術さえ向上すれば、直ぐに追い越されてしまいます。



農産物の葱やシャインマスカットは既に日本の強力なライバルです。今や鉄鋼生産量は日本の約7〜8倍、リンゴの生産量は約百倍の国です。今後とも、お



互いの技術力を高めて、世界の食料生産に寄与していかなければなりません。

その後の懇親会では、県内の最近の話題で盛り上がりました。耕作放棄地増加によるジビエ料理店の増加。ワイン栽培と醸造所の開設ブーム。農機具の盗難(畑に置くと直ぐに盗まれる)。退職後の各地域での役員活動等。

最後に農学部の学生歌を元気に歌い、来年も長野市での再会を約束して散会しました。参加者が更に増えることを願っております。

桜井 正一(昭46農)

### ◆富山県支部

平成最後の年はイノシシ年ですが、近年、各地でイノシシによる被害が報告されており、富山県でもイノシシの駆除数が毎年前年を上回る状況で、農作物被害が減少する様子は見えていません。昨年は、暗い話題ばかりではなく、明るい話題もありました。富山米の新品種「富富富」が一般消費者向けにデビューしました。味の方は「うまみとあまみが口の中でふわりと香る」とのことです。県内では好評です。

そんな話題が豊富な富山県では平成30年7月25日(金)、とやま自遊館(富山市)において、新潟大学卒業生が集まり、平成30年度支部総会・懇



親会を盛大に開催しました。

当日は、農学部生産環境科学科の中田先生をお招きしたところ、38名もの方々に出席していただきました。

総会では、中島清信支部長(S47卒)の挨拶と5月に新潟市で開催された同窓会総会の報告があり、その後、昨年度の活動報告・会計報告が行われ、それぞれ承認されました。

懇親会では初めに、中田先生から現在の農学部の写真等をプロジェクトで紹介しながら大学の近況等についてお話ししていただきました。が、事務局の手違いでプロジェクトの準備が遅れてしまい先生にはご迷惑をおかけしてしまいました。

次に今年度参加した新入会員2名(県職員で2名とも生還環境科学科の卒業生)の紹介を行ない、一人ずつ自己紹介をしていただきました。が、先輩からは励ましや容赦ない質問攻めがあり、会場は盛り上がりました。

最後は、毎年恒例の「農学部学生歌」四季の新潟」を出席者全員で合唱し、楽しいひとときの終わりにし

ました。

今回の懇親会の中で、富山県支部で新潟大学見学ツアーを開催してはどうかとの意見がありました。いつか実現できたらと思っています。

中田 有香(平18生環)

### ◆福井県支部

福井県支部では、平成30年12月14日(金)に福井市内で総会を開催しました。今年の総会は、師走の開催となつてしまい、出席者は昨年より少ない11名でしたが、落ち着いた雰囲気の中で楽しいひと時を過ごしました。

総会では、日下会長のあいさつの後、会計報告と記念撮影を行い、懇親会に移りました。懇親会では、季刊広報誌「六花」を用いて、新潟大学が取り組む日本酒学について情報共有を行いました。

なお、今回の総会で、日下会長から小竹新会長にバトンタッチされました。今後は、小竹新会長の下で、引き続き会員が力を合わせて伝統ある福井県支部を盛り上げていきたいと考えています。

今回、残念ながら参加できなかった福井支部の皆さま、次回ぜひご参加ください。

東 正樹(平5林)



## 職場紹介

吉乃川グループ

# 吉乃川株式会社・中越酵母工業株式会社

坂井航（平28・応生）

## 【会社概要】

酒造  
りの吉  
乃川株  
式会社  
と酵母  
製造の  
中越酵  
母工業  
株式會  
社は吉  
乃川グ  
ループ  
に属し  
ています。



瓢亭（酒蔵資料館）

吉乃川は上杉謙信が活躍した戦国時代、天文17年（1548）創業で新潟県内の蔵元の中で最古の蔵元です。醸造の町として知られる長岡市摂田屋に位置しており、界限には酒、味噌、醤油など6つの蔵があります。中越酵母工業は昭和22年創立、吉乃川と同じ敷地内に位置します。パン酵母製造を主とし他に清酒・ビールなどの醸造用酵母、発酵風味調味液等の製造を行っています。

## 【吉乃川：こだわりの酒造り】

吉乃川は『機械化はしても自動化はしない』を信条に、伝統の技に支えられた手造り大吟醸造りを基本とした酒造りを続けており、「晩酌の酒」として飲み飽きしない酒、毎日飲みたい酒を目指しています。

弊社はおいしい酒をリーズナブルに提供したいとの思いでどこよりも早く大型タンク仕込みでの大量かつ安定した酒造りを実現してきました。そして酒造りの原料米は全て高品質な新潟県産米にこだわり、さらに高品質な原料米を求めて2016年より農産部を発足させ（現 吉乃川農産株式会社）自社栽培を進めています。仕込み水には蔵の井戸水である「天下甘露泉」を使用しています。東山連峰の雪解け水と雄大な信濃川の伏流水が地下でまざり合ったミネラルを適度に含む軟水で、酒質を柔らかなく端麗な味に仕上げられています。このように長い歴史の中で培ってきた伝統の味と技を守り続けながらも、常に飲む人の思いを大切に酒を醸しています。

## 【中越酵母工業：酵母の純粹培養】

酵母製造専門の会社は全国で4社のみで、酒蔵のグループ会社なのは弊社だけです。もともと酒造りで酵母を扱っていた吉乃川にパン酵母をつくらないかと声が掛かり、酵母製造会社が設立されました。

委託培養が主な仕事で、特定の菌株を純粹培養によって、安定した品質の酵母を効率的に大量につくり出す。最終的には栄養分を洗い流して脱水し、生きた酵母の塊をブロック状に成形して製品に仕上げられています。1日の生産量は製品重量で約15トンになります。

この培養技術はもちろん吉乃川の酒造りにも活かされています。ぶれない安定した酒質で大量のお酒を仕込む「大型仕込み」を先駆けて実現できたのは、この酵母培養の技術があったからといえます。

## 【当グループ新潟大学農学部出身者】

両社合わせて従業員は113人、そのうち農学部出身者は5人（吉乃川 4、中越酵母工業 1）います。年齢層は20代から50代まで、製造や生産管理・研究、企画、管理職と部署も様々です。またこのうち1名が社会人ドクターとして新潟大学大学院に在籍しています。

日本酒造り・酵母培養ともに食品・微生物を扱う仕事のため大学で学ん

だことが幅広く役立っています。また新潟大学で日本酒学が発足したことから今後より連携をとっていく事と思っています。

## 【最後に】

吉乃川は、代々の先達から引き継ぎ磨いてきたものを大切に守る一方で、変化に応じて新しいチャレンジを続けてきました。だからこそ470年もの間造り続けてこれただと思えます。これからも500年という大きな節目を迎えられるように両社の技術を合わせ挑戦を重ね、皆様に愛されるものをつくっていききたいと思えます。弊社製品に出会う機会がありましたら是非ご賞味ください。



人物後方は造りの蔵（眞浩蔵、昌和蔵）

左から畠山明、中川正義、坂井航、木戸隆のみなさん

# 特集

## 新潟大学

### 地域連携フードサイエンスセンターの

### ご紹介

高齢化や生活習慣病、食品アレルギーなどが問題視される現在、「食と健康」への注目が高まっています。穀倉地帯であり、有数の食品加工地帯である新潟においてこれらの新たな課題解決に向けて、新潟大学では各学部連携による新たな食品研究組織「地域連携フードサイエンスセンター」を組織し、研究・教育を展開しています。

15年前に有志でスタートしましたが、教員が所属学部の枠を超えたバーチャルな連携を行う組織として平成17年に全学に正式に認定され、現在は農学、医学、歯学、教育学、工学の各学部、また近隣大学の食品研究者が加わり、計69名のメンバーで情報を共有し、異分野融合研究、地域貢献、教育活動を行っています（センター長 農学部教授 西海理之）。

工学系で米タンパク質の共同研究が展開されています。さらに新潟県内には世界トップクラスの米に関する研究機関や技術・知見が集積しています。これらセンター及び関連研究者・機関が連携し、新たな「食」研究を推進し、米の健康機能（生活習慣病予防作用など）、米の高度利用技術（高圧処理など）などの研究を展開しています。

#### 2 災害食の研究

中越地震を契機に、災害時の食の課題に注目し、研究を開始した結果、従来の「非常食」（長期保存、大量備蓄の機能）のみでは、被災地での多様な被災者（乳幼児、高齢者、食品アレルギー、栄養制限、復興支援者、救難者等）には対応しきれない状況が浮き彫りとなりました。そこで多様な被災者を想定した食事を「災害食」と定義し、新たな備えの拡大を図っております。当センターの研究を契機に全国規模の「日本災害食学会」を設立し（事務局 東京）、2015年に「日本災害食認証制度」を開始いたしました。現在、全国で約120食品が認証され、東京都等の入札基準に用いられるなど、「災害に備えた新たな食の備え」の推進に活用されています。この研究や学会運

営、災害食の製造・普及、備えの推進などには農学部卒業生の皆様のご協力をいただいております。新潟発の研究・開発として産学官連携で展開しています。



日本災害食  
認証ロゴマーク

#### 3 高圧食品加工技術の研究

食品への高圧処理が提唱された当初から、新潟大学は食肉の物性に及ぼす高圧処理の影響についての基礎・応用研究を進めて参りました。これら高圧食品加工技術に関する学術的知見の蓄積を基礎に、産学官連携で巨大プロジェクト「JST地域結集型研究開発プログラム 食の高付加価値化に資する基盤技術の開発」（平成20～25年）も実施させていただきました。多くの成果が得られました。現在は日本の超高齢者社会にも対応できるような新たな機能を持った食品、例えば、咀嚼や嚥下能力の弱った人でも食べやすい食品や高齢者の健康保持に貢献できるような食品などの開発に向けた高圧食品加工技術の実用化等を目指し、研究をしています。

#### 4 大学生のための食育セミナー （教育活動）

センターの多様な食品研究を学生教育に生かし、全学部の学生を対象に、「新潟の食の魅力を知り、健康栄養力を向上させる学生向け食育シ

リーズセミナー事業」として、食事の重要性、旬の食材、食の魅力、新潟の地域食品産業の魅力等に関するセミナーを開催しています。テーマとして、けんさ焼き、笹団子、新潟朝ごはん、和食、自炊、介護食などを各回で取り上げ、食品企業、旅館を組合、大学生協等との連携により、試食も実施。学生に健康栄養の重要性と、「食の新潟」といわれる新潟の魅力を深めさせる活動を実施しています。



大学生のための食育セミナー

この他にも、歯学部と農学部を中心とした「高齢化社会に対応した食品の基礎研究及び食品開発」等々の多様な研究活動を行い、食と健康の課題の解決に向け、また美味しい食品、特徴を持った食品の開発を目指しております。

これらの展開は、新潟県、新潟市をはじめ、国、自治体、民間企業等との産学官連携により進めさせていただきます。特に、多くの農学部卒業生の皆様からのご支援、ご協力をいただいております。誌面を借りて御礼申し上げます。

（センター事務局／  
農学部教授 藤村忍）

#### 1 米の高度加工利用及び 機能性の研究

新潟大学の農学系分野には、米の育種・遺伝、作物、機能性、加工・利用、経済、土地利用など米に関連する教員が約25%を占め、研究・教育を行っています。農学系、医学系、

環境に優しい

資源循環型農業を目指して

小澤 康 弘 (昭60農)

## ① 近況報告

私は、卒業後直ちに群馬に帰り農業後継者として親元就農しました。

その後、(社)国際農友会の主催する派米農業実習事業に応募し一年間カリフォルニア州の農場にファームステイしました。帰国後、親の事業を継承して現在も肉牛・米麦・白菜・キャベツを作物とする資源循環型の複合経営をしておりま

す。長男が就農しその後次男の就農を機に平成二十八年に法人化しました。そして今、国の畜産クラスター事業を活用して肉牛を増頭して規模拡大中です。



もち米育ちの『五穀和牛』のブランドで販売しています。

## ② 趣味、または熱中していること

3Rの精神で循環型社会構築の実践としてヤフォクでの掘り出し物の購入にはまっています。未だ駆け出しですが、中毒にならないように気をつけようとしています。

## ③ 最近、感動したこと

今年長女が、成人式を迎えますが、振袖をまとった前撮りをした際の娘の変わり様と写真を見て実感する若いつもりでいた夫婦の変わり様。

## ④ 同窓生・在学生の皆さんへ

同窓生の皆さん中には農業に従事

されている方も少なくないと思いますが、各地で活躍されている皆さんと情報交換できる機会があれば有り難いと思っております。

大学時代、野球部に所属しそれなりに厳しい練習に日々汗を流して、その中で集中力と決めたことはやり抜く精神力を養えたと思います。若い在校学生の皆さんには、何事にも怯むことなくチャレンジ精神をもって多くの経験をしてもらいたいと思います。

## ⑤ 次回の執筆者の紹介

今回は農学科の同級生で同じく野球部に所属し、高校時代甲子園出場を果たした遠藤昌文君を紹介いたします。遠藤君は、新潟県教員として勤務後、現在県内で農業に従事する努力家です。

## 皆さんお元気ですか

西嶋(北野)雅人 (平11生環)

## ① 近況報告

憧れの一人暮らし、沢山の良き仲間巡りに逢えた新潟大学五十嵐キャ

ンパスを後にしてから、もう20年が過ぎようとしています。時の経つのは早いですね、記事を書きながら一人、感慨にふけています。ご挨拶が遅れました、旧姓北野です。

前置きが長くなりましたが、現在、富山県庁の土木部に所属しております。これまでに道路や河川、さらには港湾などの土木分野に携わらせていただいております。時には小学生に土木を学ぶ教室で講師もしています。土木施設の重要さを幅広い年代の方に分かりやすく伝えたいと思っています。

## ② 趣味、または熱中していること

昨年執筆をお願いされた同期の布野隆之君と被りますが、育児でしょうか。息子は現在小学4年生ですが、サッカーをしています。(親は野球をしてほしかった)その試合を見に行くたびにハラハラドキドキしています。後は料理でしょうか。嫁の助けになればと思いつく気がなく始めた料理ですが、準備や手際の良さが必要になることに加え、その時間あらゆる感覚を研ぎ澄ますことが要求され奥が深いです。同じ職場の先輩である生環OB勝山さんの料理の腕前には遠く及びませんが。

### ③ 最近、感動したこと

感動というか驚いたことを。つい先日12月初旬になりますが、新潟に出張する機会がありました。万代バスターミナルに着いて、昼食をとるために伊勢丹近くを歩いていると何やら工事の規制をしていました。その内



時代の移り変わりを感じますね。

容は：レインボータワーの撤去工事でした。新潟大学の受験前日に万代の街を歩いて、「うわー都会だ」と一人浮かれていたのですが、見上げたその先に、新潟の象徴・七色のレインボータワーがありました。今でもその堂々たる姿が目には焼き付いています。老朽化により撤去されたことですが、時代の移り変わりを肌で感じました。

れをきっかけに新潟に集まり同窓会でもして昔話でもしませんか。

### ⑤ 次回の執筆者の紹介

大学を卒業した後、富山に嫁いでこられ現在も仲良くさせていただいている、H11年農生卒の篠原（旧姓石山）美智子さんをお願いしています。

### ④ 同窓生・在学生の皆さんへ

在学生の皆さんへ。勉強も大事ですが、長い人生の中、これだけ自分の意志で自由に動ける時間はありませんので、有意義な時間を過ごしてください。

同窓生の皆さんへ。お元気にしておりますでしょうか。平成も終わり、また新しい時代の幕が開けます。こ

### 福島の米を売っています！

赤塚 康雄（平13農生）

平成13年3月の大学卒業後は福島県庁へ就職し、農業技術の指導や補助事業、放射性物質の分析と様々な業務を経験させてもらい、現在は福島県農産物流通課で県産米の販売を

推進する仕事を行っています。

福島県は、震災前全国第4位の生産量を誇る米どころでしたが、原発事故の風評から未だに福島の米だからと言う理由で敬遠される話も聞きます。まずは米の品質なり、商品としての力で勝負することができるよう、正しく情報を伝え、その美味しさを分かってもらうことが自分の使命だと思っています。

お祭り等の消費者向けのイベントだけでなく、量販店と協力した販売フェアの開催、お米屋さんへの直接営業など、ある意味行政の枠を超えた形で仕事をさせてもらっており、



出張の度に生産と販売両方の大切さを痛感しています。

平日は子供が寝た後の帰宅になるので、プライベートでは休日の家族団らんが何よりの楽しみです。子供に相手をしてもらえるうちが花！今年の冬も家族でスキーと温泉三昧を予定しています！

最後ですが、福島県オリジナルのお米「天のつぶ」。しっかりとした食感で、冷めても美味しいお米です。見かけましたら是非一度手に取っていただけると幸いです。

### ・次回の執筆者の紹介

現在福島県庁に勤務されている先輩の木幡和宏さんをお願いしました。

### 新潟市で頑張っています。

馬場 達也（平20応生）

### ① 近況報告

新潟市内にある「デビフペット株式会社」に勤務しています。弊社は昭和56年に創業したペットフードのメーカーです。犬用缶詰、犬用スナック、猫用缶詰、猫用スナックの販売をしており食品用素材を使用し、新

潟の自社工場で製造しております。私は商品開発部に所属しており、商品設計・試作等の業務を行っており、県外への転勤に怯えながら(笑)、忙しく充実した毎日を送っております。

## ② 熱中していること

最近は何でも料理をしています。子どもが小さいので、あまり外食にも行けないので、家でご飯を作ることがほとんどです。ですので、家族で近所のスーパーで週末にまとめて買い物します。最近、電気圧力鍋を購入しました。時間のかかる煮物料理などいろいろなものが作れるようになります。レポートリが増えそうで、今から楽しみにしています。

## ③ 感動したこと

子どもが2歳になり、しゃべる言葉が増えてきて、お父さんと呼ばれたときはとても驚きました。家中を走り回って子どもの面倒を見るのはとても大変ですが、子どもは成長が早く、感動の毎日です。

## ④ 大学、同窓会の皆さんへ

農学部応用生物学科の同期の仲間とは今でもときどき集まって飲んだ



り、旅行に行ったりすることもありません。仕事が忙しくて大変でも、同期の仲間がいることが毎日の励みになることもありしますので、とてもありがたみを感じます。

## ⑤ 次回の執筆者の紹介

同じ畜産製造学研究室の後輩である太刀川くんにお話ししました。

## 卒業からはや9年

相澤 賢太郎 (平22生環)

## ① 近況報告

平成22年に新潟県の林業職員として採用後、糸魚川↓県庁↓津川と3場所目の職場で社会人9年目が終わろうとしています。糸魚川↓県庁で

は、森林管理や森林病害虫対策等に携わりまして。津川に異動後は、治山事業に携わっており、荒廃森林の復旧に向け、奮闘中です。

なぜ山崩れが起こるのか、どのような対策が有効で経済的か…。経験が浅く、わからないことが多いですが、職場の方に助けていただきながら日々勉強中です。

## ② 趣味や熱中していること

旅行、ランニング、スノーボードが趣味です。ランニングは就職後、職場の方から誘われたのをきっかけに、毎年白根や新潟市、五泉市のマラソンに出場しています。タイムは練習不足と体重の増加等の要因により伸び悩んでいます。走りきった後の達成感が忘れられず、気付いたらフルマラソンにエントリーしている自分がいます。

## ③ 最近、感動したこと

就職5年目で結婚しまして、12月に長男が誕生しました。出産は1日ばかりの過酷なものでしたが、奥さんの頑張りもあり健康な子が生まれました。出産に立会いでしたが、誕生の瞬間は感動して涙が出ました。退院後は毎日実家に会いに行っています。

## ④ 学生の皆さんへ

就職後は仕事に大半の時間を費やすこととなります。一方で、学生時代には、自由な時間がたくさんあります。

その強みを活かし、将来自分が社会に出てどのように活躍したいのか、そのためには今、何をすべきなのか…。

あまりある時間を使って考え、行動してみることが大切だと感じます。

## ⑤ 次回の執筆者の紹介

斎藤敬吾さんです。学部時代の同期で、現在は株式会社日立物流で活躍されています。よろしくお話しします。



# 第23回 農学部フォーラム 第9回 新潟大学・刈羽村先端農業 バイオ研究センターフォーラムの報告

K A A B センター長 三ツ井 敏明

2018年9月15日(土)に、第23回農学部フォーラム/第9回新潟大学・刈羽村先端農業バイオ研究センターフォーラム(主催 新潟大学農学部、新潟大学・刈羽村先端農業バイオ研究センター、後援 新潟県、新潟大学農学部同窓会)を新潟大学農学部大講義室において実施しました。フォーラム開催に先立ち、高橋姿学長および品田宏夫刈羽村村長から挨拶があり、農学部の中野和弘教授の司会により講演会が進められました。

今回は、「農山村地域の未来を考えるー今すべきことはなにかー」と題し、まず北海道大学大学院の中村太士教授から、基調講演「人口減少と気候変動に地域はどう立ち向かうか？」があり、現在維持している社会基盤を将来どのように維持管理していくかという視点で、グレイインフラからグリーンインフラへの転換を模索する最先端の取り組み等について、報告がありました。それに続



き、本学農学部の関係者から、島恒夫教授の「認定制度を土台

にした順応的なトキの生息地管理は実現できるか?」、望月翔太助教からは「人と野生動物が共存する里地山の継承ー獣害対策で地域を元気にするー」、さらに坂田寧代准教授からは「中山間地域における地域コミュニティの振興ー長岡市山古志地区を事例としてー」と題した報告がありました。各講演の後には多くの質疑応答や意見交換が行われ、活発なフォーラムとなりました。

本フォーラムについては、一般市民、大学生・高校生、農業関係者、行政担当者からの関心が強く、山古志地区や刈羽村からの44名はじめ、85名の参加者がありました。講演会となりました。

最後に、末吉農学部長から閉会の挨拶があり、講師の方々、高橋学長、品田村長、フォーラムへの参加者へのお礼とともに、農学部とK A A Bに対し、「今回のフォーラムで、農学は『食料・生命・環境を支える総合科学』であることを再認識できた。今後魅力的な取組を学内外に発信していただきたい」と述べられました。ご協力、ご参加くださった皆様

に心から感謝申し上げます。なお、本フォーラムは新潟大学農学部同窓会から多大な支援をいただきましたことを記して、ここに感謝申し上げます。(文責 運営委員 中野和弘)

## 2018年度新潟大学農学部国際交流実績および予定

イベントの名称	取組 種	日時	場所	参加者人数
トピタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム (文科省)	派遣	4月1日-2月28日	スリランカ・ペラデニア大学	学生1名 (スパイスの機能を学びその効果的の用法についての考察)
保護者懇談会 (国際交流紹介)	—	4月3日	朱鷺メッセ	保護者: 約130名 教職員: 15名
農学部国際交流第1回FD	受入れ	4月13日	農学部	上海大学経済学院 (副院長 聶永有教授) ほか約30名
留学ガイダンス	—	5月9日	農学部	学生、教員約50名
農学部国際交流第2回FD	受入れ	6月6日	農学部	米国ジョージア大学 (Woo Kyun Kim教授) ほか約30名
農学部後援会総会 (国際交流紹介)	—	6月30日	農学部	保護者: 約70名 教職員: 約10名
JICAプロジェクト	受入れ	8月1日	農学部	中国東北農業大学 張教授ほか5名
大学の世界展開力強化事業 (短期学生受入)	受入れ	8月19日-9月1日	新潟大学・福島大学	アンカラ大学、エーゲ大学、学生18名
大学の世界展開力強化事業 (短期学生派遣)	派遣	9月3日-9月16日	アンカラ大学、エーゲ大学	教員3名、学生10名 (新潟大学) 学生6名 (福島大学)
大学の世界展開力強化事業 (短期学生派遣)	派遣	9月3日-9月16日	アンカラ大学、中東工科大学	教員3名 学生2名
大学の世界展開力強化事業 (中長期学生受け入れ)	受入れ	随時	新潟大学	アンカラ大学、中東工科大学より7名 (31年2月より1名)
大学の世界展開力強化事業 (中長期学生派遣)	派遣	随時	アンカラ大学、エーゲ大学	学生3名
ロシアサマースクール	派遣	9月3日-9月12日	ウスリークス	学部生6名、教員1名
K A A B 国際シンポジウム	受入れ	9月27日	新潟大学	フランス、ドイツ、スペインなど国内外からの参加96名の参加者
ペラデニア大学からの表敬訪問と交流計画打ち合わせ	受入れ	10月15日	新潟大学	教職員4名
ブトラマレーシア大学スタディーツアー	派遣	11月2日-11月16日	ブトラマレーシア大学	学生40名、教員6名
新潟大学農学部・ブトラマレーシア大学ジョイントシンポ	派遣	11月13日-11月15日	クアラルンプール	学生41名、教員10名
留学生と指導教員の懇親会	受入れ	12月6日	生協第一食堂	学生等53人 教職員22人
ロシアスプリングスクール	派遣	3月11日-3月21日	ウスリークス	ロシア人博士学生1名 学部生6名
ペラデニア大学スタディーツアー	派遣	3月14日-3月23日	キャンディ	教員1名 学部生5名

# 農学部における国際交流について

農学部国際交流委員会委員長 岡崎 桂一

30年度の農学部の国際交流では、刈羽村先端農業バイオ研究センター（K A A B）国際シンポジウム、J I C Aプロジェクトなど海外の研究者との交流も盛んですが、マレーシアプトラ大学（U P M）と本農学部が協力して、第6回の農学部国際シンポジウムを11月13日～15日にマレーシアで開催しました。農学部からは、約50名の学生および教員が参加し研究発表を公表し、成功裏に実施することができました。プレシンポジウム企画として、学生のスタディーツアーを11月2日～12日まで実施し、学生は文化交流も含め多くのことを学びました。このほか、文部科学省のトビタテ！留学J A P A N日本代表プログラムを利用し、スリランカ・ペラデニア大学へ1年間留学中の学生や「大学の世界展開力強化事業」を利用し、トルコの大学へ留学中の学生など、中長期で留学する学生がいます。また、農学部独自のロシアサマースクールなどで学生の派遣を実施するなど、「国際的な視野を持つ人材の養成」ができるように、学生に魅力的な履修プログラム提供に努

めています。最後になりましたが、農学部国際シンポの一部の企画は、農学部同窓会より文化活動支援経費を受け実施しました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。



マレーシアスタディーツアーおよび農学部国際シンポジウム日程

日程	内 容
1日目	マレーシア到着、キャンパスツアー
2日目	養蜂農園見学、はちみつソーブ作成実習、ラボツアー（組織培養研究室、植物微生物）
3日目	プトラジャヤ（モスク見学）
4日目	ダチョウ農園見学、マレーシア伝統の遊び体験
5日目	マラッカ景観保護区散策
6日目	有機農業の講義と実習、チョコレート工場見学、マレーシア伝統菓子調理実習
7日目	クアラランプール観光（博物館見学等）
8日目	ライスセンター見学、田んぼ散策
9日目	稲の手植え、フィッシュキャッチング、マレーシア伝統料理作製、伝統的脱穀法体験、凧づくり体験、マレーシア伝統ダンス見学・体験
10日目	伝統菓子工場見学、シンポジウム準備
11日目	国際シンポジウム、懇親会
12日目	国際シンポジウム
13日目	エクスカージョン（フルーツ農園見学、インド寺院見学、お別れ会）



## 新潟大学農学部常任幹事会が開催されました

平成30年5月26日(土)、アートホテル新潟駅前において、例年のように常任幹事会が開催されました。

末吉農学部長をお迎えし、一年ぶりに元氣な各県支部長の御顔が揃いました。更に、各職域から選出された常任幹事24名の顔ぶれも揃いました。

例年のように活動報告・活動計画が提案され、承認されました。

また、本常任幹事会を最後に退任される箕口幹事長から、学部の動向等の説明がありました。

引続いて、幹事長の後任人事が諮られ、杉山稔恵氏(畜産 37回卒)を次期幹事長に指名しました。



## 学部だより

### 新任教員紹介

応用生命科学プログラム

助教 金古堅太郎

(平18年生)



平成29年度から農学部の助教に就任しました金古堅太郎です。よろしくお

ねがいます。

私は生まれが福島県であります。平成14年農学部応用生物化学科に入学した新潟大学の卒業生でもあります。研究室に配属され学位を取得まで、また現在に至るまで三ツ井敏明教授のもとで、研究を続けています。研究テーマは「イネのプラスチックド局在型糖タンパク質の糖鎖構造とメカニズム」、「高温登熟により発生する白濁米発生メカニズムとその抑制技術」を行っており、質量分析装置を用いたプロテオミクス解析を主な手法にしています。また、近年はK A A B (新潟大学・刈羽村先端農業バイオ研究センター)の運営に関わるようになりました。K A A B

には高性能温室が8基とP2Pレベルの炭酸ガス制御可能人工光温室2基が備わっており、我々の研究テーマである前述白濁米発生メカニズム解明のための研究や次世代の高温・高炭酸ガス耐性イネの開発に活用しています。そこでは、植物・生物を扱う研究を行う一方で、K A A Bの温室群などの研究設備の保守・点検、機械の整備なども私の仕事となっております。

私は、イネを扱うため田んぼ仕事も質量分析装置といった最新の分析装置、高性能温室の保守・整備などできるといった2つの能力を生かして、高温登熟白濁米の解明、高温・高炭酸ガス環境耐性イネの開発を進めていきたいと思っております。

## 山本仁志先生を偲んで

権田 豊

(農学部教授)

山本仁志先生が、平成30年10月にご逝去なさいました。

山本先生は、昭和39年に農学部林学科をご卒業された後に、助手として農学部にご着任されました。平成9年に東京大学で博士号を取得後、平成10年に助教、平成11年に教授にご昇進され、平成18年に退職され

るまで、約40年間の長きにわたり本学にご奉職されました。

山本先生のご専門は、森林利用学で、森林の利用や林業活動の活性化するために不可欠な林道を研究対象とされてきました。昭和30年に発足した佐渡演習林(現フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション)の約15kmの林道網の設計に尽力されただけでなく、林道完成後は、新しい路体構造の効果の研究、林道のり面の崩壊土量の推定、のり面の保護工の研究、路面の凹凸の発生メカニズムの研究など、林道路面の特性とその評価法に関して研究を手がけられてきました。

山本先生の研究の中で特徴的だったのは、研究に必要な計測装置を山本先生が自力で開発されている点です。学生時代からの趣味であるアマチュア無線で培った電子工作の技術を応用して、赤外線を利用した土壌水分計、加速度計と台車を組み合わせた路面の凹凸計測装置、路面から倒マス式流量計、遠隔地からカメラのシャッターを切る装置など、画期的な装置を開発されています。山本先生のご専門の林道からは少し外れているのですが、野兎追尾装置には驚かされました。これは、兎の首につけた小型の無線発信器の電波をグ

リッド状に張り巡らされたアンテナ群を利用して捕捉することにより、ウサギの行動をリアルタイムで追尾する装置です。村松農場の野兎実験場に設置された装置を見せてもらったときには、山本先生の技術力の高さとそれを応用するセンスに脱帽したのを覚えています。

山本先生はご退職後、10年以上にわたり農学部同窓会の副会長や新潟県農林水産部・農地部総合評価方式アドバイザーを務められる傍らで、おもちゃ病院新潟のドクターとしてのボランティア活動に取り組み、ご夫婦で充実した生活を過ごされていたそうです。

山本先生には、私が新潟大学着任以来20年間、公私にわたってお世話になりました。先生からいただいた恩に深く感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

## 石田一夫先生を偲んで

新村 末雄

(元農学部長  
昭52院農)

石田一夫先生が、平成30年1月19日ご逝去されました。享年89歳でした。

石田先生は、新潟大学在職中には、

農学部長として、農学教育の進展・改革に取り組み、農学部の発展に貢献されるとともに、大学院では、新潟大学自然科学研究科長として、特に、学生の研究能力の向上に力を注がれ、社会で活躍できる有為な卒業生および修了生を多数輩出されました。なお、新潟大学を定年退官後は、放送大学新潟学習センターの初代の所長として、生涯学習に意欲のある社会人の方々に指導されました。

一方家畜管理学研究室において、石田先生は、家畜や家禽の体を構成する各種の器官・組織・細胞の機能形態学的な研究に学生と共に取り組み、その成果を9編の著書と293編の原著論文としてまとめられています。特に、哺乳動物の卵子や初期胚の組織化学的研究では、世界の先駆者であるとともに、第一人者でもあり、その研究成果は国の内外で高く評価されています。先生のこのような研究功績により、我が国の家畜繁殖学分野で最も権威ある島村賞を受賞されています。また先生は、新潟大学に在職中に、いくつもの学会を大会長として開催し、家畜繁殖学や卵子研究の分野の発展にも大きく貢献されました。さらに先生は、教育者として学生には厳しかった一方、何よりも学生と一緒にお酒を飲むのが好きで、新潟大学在職中に先

生と一緒にお酒を飲まれた卒業生も多いことと思われます。このような厳しくもあり、また、人間味あふれる石田先生にもうお会いできないことは、大変さびしく、また、残念でなりません。

石田先生のご指導を受けたすべての卒業生と共に、先生のお元気な時のお顔を思い浮かべ、これまでの親身なご指導とたくさんのお思い出に感謝申し上げますとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。ゆつくり休んでください。

なお石田先生には、平成30年1月19日付で、従四位瑞宝中綬章が授与されました。合掌

## 山本興三郎先生を 偲んで

樋浦 善敬

(元農学部教員  
昭42年農)

山本興三郎先生(元新潟大学教授 家畜育種学)は、平成30年1月18日に亡くなられました。享年93歳でした。

先生は昭和27年3月に九州大学農学部畜産科を卒業後、東京大学大学院進学、東京大学助手を経て、昭和34年11月に本学農学部講師として

着任されました。以来、助教、教授を歴任され平成4年3月に定年退職されるまでの32年間、先生は熱意をもって学部学生および大学院学生の教育・研究指導にあたられ、多くの有為な人材を社会に送り込まれました。また本学馬術部の創立および発展に顧問として長きにわたって力を尽くされ、全国大会に出場する選手を輩出しました。学会活動においても日本家禽学会の開催の大会委員長や畜産学会北陸支部長を務められ、学会の発展に大きく貢献されました。

研究面においては、鶏の卵黄前駆物質(ビテリン)産生に関する育種学的研究、鶏の血液型に関する研究、そして繁殖学の河野先生との共同で鶏の産卵生理・繁殖生理に関する研究に数多くの優れた研究業績を挙げられました。とくに、着任から5年かけて系統造成中の雛を昭和39年の新潟地震で飼料補給できずに淘汰しざるを得ない失意の中、再興しての「エストロゲン投与雛の血清ピテリン生産における感受性に関する研究」は高く評価され、東京大学から農学博士の学位を授与され、(財)後藤学術報恩会の後藤養鶏学術奨励賞を受賞されました。

先生は温厚、誠実で会話好きの方で、お会いすることを楽しみにしている方も数多くおられたと思います。

近年、河渡の旧校舎で学んだ教室卒業生の集い「河渡会」や「馬術部50周年記念祝賀会」に出席されるなど元氣な様子でした。この度の訃報はあまりにも急で残念でなりません。在りし日の先生の面影を偲びつつ、ご冥福を心よりお祈りいたします。

合掌

## 福岡浩先生の

### ご逝去を悼んで

稲葉一成

(農学部助教)  
(昭62農工)

福岡浩先生におかれましては、平成30年6月5日、渡航先のブータン王国にて客死されました。57歳の若さでした。

先生は、平成5年から約20年間にわたり京都大学防災研究所にて奉職された後、平成26年に新潟大学災害・復興科学研究所の教授に着任されました。平成29年には農学部の担当にもなられ、今年度までに4名の農学部学生に卒論指導をされていきました。先生のご専門は地すべり学で、主に高速長距離運動地すべりの発生運動機構および監視、早期警戒避難に取り組んでこられました。現地調査にも精力的に出かけられ、広島や九

州北部の豪雨災害、熊本地震による土砂災害など国内はもとより、中国、ペルー、クロアチア、マレーシア、ベトナムなど世界各地でも活躍されていきました。また、新潟大学着任後では「大学の世界展開力強化事業」にもご尽力され、トルコをはじめとした諸外国の防災分野の人材育成を積極的に進められていました。

これから日本の地すべり学を牽引していくはずだった先生を喪つたことは、地すべり研究に関わる者にとつて大きな痛手であり、先生ご自身もさぞやご無念だったことと思います。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌

## 金子晃君を偲んで

小島 誠

(元農学部長)  
(昭36農)

昨年(平成29年6月13日)新潟で9回生の同期会が開かれた。前年から「新潟でやってくれ」と強く言ってきたのが金子であった。当日は地元幹事より早く会場に到着していたのも金子であった。大きな車が一台既に駐車場に止まっていた。その晩、集まったのは19名。

その夜、宴会は盛り上がった。翌

日、解散したのであるがぼくは富山から参加したAと一緒に金子に拉致されたのである。着いた処は彼自慢の草津温泉にある彼の別荘であった。Aは昭和32年の春、金子と六花寮に入寮したのであった。因みにぼくは近郊の伯母の家の書生?として新潟の人となった。

彼らとは仲良くなり時々六花寮に立ち寄りさせて貰った。8時過ぎまで粘って夕食を摂らなかつた寮生の麦飯を失敬したり、洗面器でうどんをご馳走になったものだ。二年になると、河渡に越し金子の下宿にぼくは転がり込んだ。

彼はよく勉強する男だった。彼は当時飛ぶ鳥を落とす勢いの玉利教授の「農産製造」へ、ぼくは寺田虎彦の再来かと紛う平田教授の病理を専攻。玉利教室ではイモチ菌の毒素ピリキュラリン(遂に幻の毒素となつた)の生産、構造決定など華々しい研究を展開していた。病理ではその生物活性の試験もお手伝いしていた。ぼくはウドンコ菌をやっていたが、そんな関係で教室間の関係も近かつた。

四年生の晩秋、ぼくは金子とMを妙高山登山に誘った。そして最後の頂上直下で雲に会い危うく遭難という経験をした。そのとき単独で登つて来た人にその場を助けられた。そ

の人こそSさん(故人)であった。金子の研究室の助手の方だった。なごと思ひ出は切りもない。

後年、ぼくが札幌から母校に戻りお世話になった。金子は東京へ出て大日本インキに勤め大活躍の傍ら、永く首都圏同窓会の面倒も見ていた。一度となくその会合に呼んでくれたのも彼だった。余り酒は強くなかつたがゴルフだスキーだと彼の周辺には友だちがいつも大勢集まつていたものだ。奥さん(腕前は彼以上)とどれだけ草津のゲレンデを楽しんだことか。ある日、その奥さんから電話があつた。彼の抽斗からぼくの彼への見舞いのハガキが出てきたという。

永い間友情ありがとう。

合掌



## トピックス

昭41年農学科卒  
山口邦彦さん（山  
形県米沢市在住）  
よりお便りをいた  
だきました、ト  
ピック欄で皆さん  
にご紹介いたしま  
す。

平成30年9月、品種名「平洲椿」、  
優秀古木ツバキ第10号「平洲椿」  
として日本ツバキ協会への認定登  
録を果たしました。  
山口さんは平洲椿保存推進会会  
長に就任され、今後、原木（標本  
木）の保護、増殖・普及に務め、  
上杉鷹山と細井平洲の由縁・故事・  
教訓を米沢の観光資源の一つとし  
て発信・宣伝していくと述べてお  
られます。

平成29年5月、米沢市の普門院  
境内にある上杉鷹山の師、細井平  
洲が植えたと言われるツバ  
キは、歴史の古い由緒ある  
古木ながら品種としては未  
登録ではないかと山口さん  
が気づき、新潟大学理学部  
元教授石沢進（昭34農）に  
鑑定を願い、日本ツバキ協  
会未登録種であることが判  
明しました。  
論文がほぼ完成の平成30  
年1月、石沢進先生がご逝  
去されました。その後新潟  
県立植物園の指導の下、論  
文の整理と日本ツバキ協会  
への品種登録ertzつぎを進  
めました。



鉢植えは平洲椿の1.8年生

## 農学部 の 動向

### 学 会 賞 等 受 賞

- 中野和弘（生産環境科学科）  
日本農業工学会賞
- 中野和弘（生産環境科学科）  
新農林社賞
- 丹波紗彩（平成30年3月卒業・生  
産環境科学科）8th International  
Agriculture Congress 2018 & 6th  
International Symposium for Food  
and Agriculture 2018 3位
- 三ツ井敏明 応用生物化学科  
日本応用糖質科学会 平成30年度  
学会賞
- 太田奈々恵（平成30年3月卒業・  
応用生物化学科）日本応用糖質科  
学会 ポスター賞
- 鈴木一史（昭和63年3月卒業・農  
芸化学科）長瀬研究振興賞
- 木南莉莉（農業生産科学科）  
日本地域学会著作賞

### 学 会 等 の 開 催

- 日本土壤肥料学会  
平成30年12月1日

関東支部大会（新潟大会）  
朱鷺メッセ

- 新潟コンベンションセンター  
大会運営委員長 高橋能彦教授  
フィールド科学教育研究センター  
日本地すべり学会

平成30年8月21日～8月24日  
第57回研究発表会及び現地見学会  
朱鷺メッセ

- 新潟コンベンションセンター  
大会実行委員長 福岡 浩教授  
生産環境科学科  
（災害・復興科学研究所）

### 学 位 取 得

- 上田大次郎（平成25年3月卒業・  
平成30年3月修了）応用生物化学  
科／新潟大学大学院自然科学研究  
科、博士（農学）
- 池田 祥（平成22年3月卒業・平  
成30年3月修了）農業生産科学科  
／新潟大学大学院自然科学研究科  
博士（農学）
- 島本由麻（平成25年3月卒業・平  
成30年3月修了）生産環境科学科  
／新潟大学大学院自然科学研究科  
博士（農学）

## 退職

当農学部及び新潟大学のため多大な貢献をされた先生が平成31年3月に定年退職されます。

中野 和弘教授（生産環境科学科）  
ご功績に心から感謝申し上げます。  
ありがとうございます。

## 教員 訃報

山本仁志元教授（生産環境科学科）

平成30年10月ご逝去

謹んでご冥福をお祈りいたします。  
福岡浩教授（災害・復興科学研究所）

平成30年6月ご逝去

謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 会 員 訃 報

安達 昭平（昭24・3農専農）

菅井 敬平（昭24・3農専林）

高橋 均（昭30・3総農）

東條 誠吾（昭30・3農学）

高津（坂上） 勇（昭32・3農学）

明田川 洸司（昭33・3総農）

武石 司郎（昭34・3農学）

中野 忠和（昭34・3林学）

金子 晃（昭36・3農学）

小丸 皓市（昭38・3農学）

手塚 柁雄（昭38・3林学）

横山 俊一（昭38・3農芸化）

山本 仁志（昭39・3林学）

工藤 昌利（昭41・3農芸化）

日野 明寛（昭55・3農芸化）

（卒年次順・五十音順）

## 同窓会事務局からの お願い

### 住所《変更届》について

同窓会名簿の整備は、同窓会事業の根幹であり、運営の基となる貴重な資料です。

住所を変更された場合は、左記により農学部同窓会事務局までお知らせください。

住所変更の連絡方法

① 官製ハガキまたはFAX

025-263-3107

② E-mail:

dousou@agr.niigata-u.ac.jp



## 「新潟大学カード」入会のご案内

●新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと連携して「新潟大学カード」を発行しています。

入会費  
年会費  
無料

この機に是非ともご入会を！

※詳しくはホームページ  
<http://www.niigata-u.ac.jp/dousokai/card/> を  
ご覧ください。



## 編集後記

今年の新潟の冬は積雪が少なく、昨年とは打って変わって過ごしやすい日々が続いています。みなさんのところはいかがですか？ 雪があまり少ないのも、夏の水不足や天候不順が心配されますね。最近は本当に極端な天候が多く、直ぐに災害に結び付くので十分な用心が必要です。さて、現在仕事で、大学や企業との産学官連携の業務に携わっています。企業の中堅には卒業生も沢山いらして、同じ大学出身というだけで和みます。また大学のフォーラムや成績発表会などに顔を出す機会も多くなりました。そこでびっくりするのは、学生さんが堂々と発表し、しっかり質問に答えていることです。何だ当り前じゃないかと言う方もいらっしゃるかもしれませんが、私が学生の頃を振り返れば、せいぜい校内での卒論や修論の発表と学会の地方支部会での口頭発表くらいでした。それもすごく緊張して、発表している口の中がカラカラだった記憶があります。先日の会議でも学生さんが先生と一緒に出席されていたのですが、途中で先生は、飲み会に行く時間だからあとはお前に任せたと去って行ってしまいました。もちろん、学生さんはしっかりと報告。先生と学生さんの信頼関係ができていていいなあと思った瞬間でしたが、学生さんにとってはそんなことないのかな？（ペンリレーの校正は編集委員会で行いました。ご了承ください。）

